

令和7年9月12日

進路激励会 激励のことば（通じ合うもの）

皆さん、おはようございます。

2学期もスタートして2週間が経ちますが、順調にスタートできているでしょうか。

本日は、3年生の進路激励会ということで、3年生と1,2年生に集まってもらいました。

今年、本校に対する求人件数は、昨年度と比べて、一部の上場企業も併せて更に増えていると聞いています。これは、以前もお話したように、溶接競技県代表、ロボット競技全国大会出場といった「技術の隼工」などの校内外での活躍と、卒業生の会社における信頼度の高さが反映された、隼工ブランドによるものと思われます。

今年も例年どおり3年生は、7割が就職、3割が進学を希望しています。この夏、就職希望・進学希望の3年生が、先生方のご指導とご協力の下、夏休みも返上して一生懸命に対策に取り組んでいました。

1,2年生の皆さんも、先週や昨日の進路事前学習会で、3年生の普段見ることのない、真剣な受け答えの様子を見て、一年後、二年後、自分もこの様にお話することができるようになるかなど、感じることも大いにあったのではないのでしょうか。

3年生にとって、来年度の春に入社するための、各社が実施する就職試験は、9月16日からと、いよいよ日が迫っています。

また、来春の大学・短大・専門学校等、上級学校へ進学するための入学試験も、順次行われます。

私は、3年生が、これらの試験に合格し、自分の特性を十分に発揮して、輝かしい人生をスタートして欲しいと、心から願っています。

さて、試験を迎えるにあたって、筆記試験で知識や考え方など、学力を発揮することはもちろんですが、そこで必ずといっていいほど実施されるのは、面接です。

面接は、人が人と一緒に働く、「この人と一緒に働きたい」と、勤務においては家族と過ごす時間よりも長く空間を共に過ごす、その人の「**人柄**を知るため」に大切な機会です。

そこで3年生には、受験前の再確認として、1,2年生には普段の生活における今後のヒントとして聴いてください。

面接では、なぜ受験することとなったのか、その動機を必ず聴かれることとなりますが、その時に「ごく一般的に」「どこの会社でも通用するような」、「当たり障りのない」「もっともな」ことを、「気持ちの入っていない」「覚えてきたことをそのまま言う」といった言動を行ったところで、「この方と、ぜひ一緒に働きたい」と、相手の気持ちは動くでしょうか。

先日の始業式でもお話ししましたが、critical thinking（クリティカルシンキング:批判的思考）で、面接官の立場となり「視点を変えて」考えてみましょう。

集団面接では、皆さんからみても「高校生活を充実したと思われる元気な声で、浚刺とした5名の受検生」の中から、選考先が「あなたを合格としたい。」「何故なら、あなたは、高校生活が充実しており、元気な声で浚刺としていたから」と、抽象的な言葉で言われて、一瞬合格に喜んで、本当に「自分のことを理解してくれた」と、疑いなく確信が持てるでしょうか。

それよりも具体的にあなただけが持つエピソードに対して「頑張って、その過程の中で苦労したこと」、「挫折しかかったが、皆と協力して乗り越え達成したこと」などから、「気づき」や「学び」を進路先でも「活かしていきたい」としたその想いを、受験先がくみ取ってもらえたことが分かれば、本当に自分と受験先の心が通じ合ったと喜び合える関係、信頼が持てる心境に達するのではないのでしょうか。

このことは、人と人がお付き合いを始める上でも「通じ合うもの」が大切なことと考えます。

求める人物像を掲げている「企業」や、アドミッションポリシーを掲げる「学校」も、皆さんを受け入れたいとしたときの人柄であり、「通じ合うもの」が、感じ取れるかです。

以上のことから、皆さんには、普段から相手に想いを伝える時に、「より具体的に言葉をつむぐことが、できているか」を、自分に問いを立ててみることを勧めます。

最後になりますが、ここにいる生徒全員の皆さんは、やがては私たち大人と共に協働して、共存・共栄する社会の一員として活躍する日がやってきます。

人の願いや想いを推察し、それに応えることへの喜びを知る隼工の生徒が、スムーズに社会に順応していくことで、一人一人の生徒の皆さんが、社会生活に喜びを感じ取れるよう職員・保護者と共に伴走したいと考えています。

まずは3年生諸君の普段の想いが、進路先に十二分に伝わることを祈念して、進路激励会、「激励のことば」といたします。頑張ってください。心から応援いたします。